

| 岩手南部森林管理署 | |
|--|---|
| タイトル | 間伐の低コスト化に向けた現地検討会 |
| 実施年月日 | 平成24年8月24日（金） |
| 実施場所 | 岩手県胆沢郡金ヶ崎町永岡生涯教育センター 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根字駒ヶ岳国有林162林班ほか |
| 参加者 | 局署：東北森林管理局、岩手南部森林管理署、遠野支署 15名 外部：岩手県南広域振興局林務部、奥州市、 西和賀町森林組合、岩手南部国有林材生産協同組合、 遠野地区国有林材生産協同組合、署管内林業事業体等、 遠野支署管内林業事業体等 15名 計 30名 |
| <p>【取組の目的・概要】 間伐の低コスト化に向けては、間伐箇所の集約化を行い、高性能林業機械の性能を最大に発揮させることを中心とした労働生産性の向上が不可欠であり、合理的に配置された路網と、素材生産の工程全体を通じて、生産性が高まるような人員や林業機械の配置による低コスト作業システムを構築することが重要であることから、下記について現地検討会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な路網配置について検討 ・工程間の生産性を可能な限り一致させる作業システムについて検討 | |
| <p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地の森林作業道は、「森林作業道作設指針」に基づき適切と評価。 ・既設作業道の経過観察を数カ所で行っており、作設後の経過を把握することにより、「森林作業道作設指針」活用の理解を深めた。 ・管内各事業体の作業システムの現状と問題点が把握できた。 | |
| <p>【出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の購入、更新が予算的に難しい。 ・労働生産性は、今般の活用型保育間伐の林分では材が細いので低下する。 ・列状間伐においては、作業効率を考えるなら1伐より2伐が良い。 ・生産性の向上が採算性の向上（低コスト化）に結びつくのか。 ・各事業体が高性能林業機械等により作業効率を上げていくには、一定の事業量が必要であり、今後の事業量の確保が懸念される。 ・各事業体によって、手持ちの機械、人員が違うので、画一的に理想の工程、配置にすることは難しい。 | |
| <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性の向上のみならず、作業道作設や流通まで考慮した採算性の向上についての検討が必要。 ・機械の購入、人員の確保等事業体の先行投資を考えた場合、中期的な事業量の明示が必要。 ・高密度な路網、列状間伐における効率的な伐採幅等を確保した場合、今後の森林施業や森林景観等について検討が必要。 | |

タ イ ト ル

間伐の低コスト化に向けた現地検討会



署長挨拶



局担当官の説明



間伐の作業システムの紹介



森林作業道の検討



高性能林業機械による作業



現地での意見交換